

健康に適した地域とは

生活習慣病の予知・予防

島根大は今月中にも、長期間の追跡調査を通して生活習慣病の予知・予防に取り組む疾病予知予防研究拠点を発足させる。遺伝や生活習慣と病気の因果関係を探る調査は各地で行われているが、同大学では人文社会科学系の研究者らも交えて、近所付き合いや地域コミュニティの性質が個人に与える影響も調査。関係者は「遺伝による体質は変えることができないが、地域社会の特性が与える影

島根大が研究拠点発足へ

響が明らかになれば、健康に適した地域社会を作ることも可能」と期待を込める。

機能が検査、飲酒・喫煙の有無などの項目に加えて、地域社会を「町内会活動が盛んで、き

集団を一定期間追跡する研究はコホート研究と呼ばれ、島根の「希望な集団」などのグ

新たな政策に挑戦

うに人口の出入りの少ない地域で適している」とされる。

ループに分けて追跡する。医学部だけでなく、生物資源科学部や法文

同大学によると、調査は出雲市や雲南市などの約5000人を対象に、5〜10年以上かけて実施。血液や呼吸

が、生活習慣病と地域

出雲市や雲南市など5000人対象

集団の関係は明らかになってないといい、同大学プロジェクト研究推進機構の濱野強専任講師(社会疫学)は「これからの健康政策を考えていく上で、新しい挑戦になる」と意気込む。医学部の並河徹教授(病態病理学)は「将来的には他大学と連携して、県内に多い地域の結びつきの強いコミュニティと、都会的なコミュニティを比較する研究ができれば」と話している。

【細谷拓海】